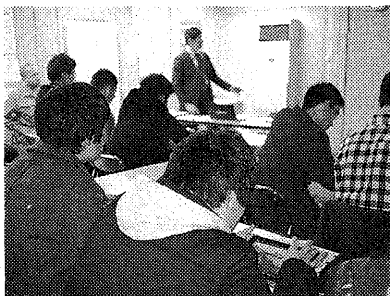


日
建
連

さがみ縦貫相模川橋上部工 日大生、C I Mの活用現場見学

日本建設業連合会（中村満義会長）は13日、相模原市の「さがみ縦貫相模川橋上部工事」（施工＝大林組、大賀猛所長）で市民現場見学会を開いた。日大の学生と教員計19人が参加し、C I M（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）を活用している同工事の様子を見学した。

さがみ縦貫相模川橋は、長さ301mのP C 3径間連続ラーメン箱桁橋。現場では、図面を3 Dでモデル化したC I Mを活用し、配筋の施工順序の検討や、ケーブルや付属物との干渉のチェック、たわみ計測結果のモデルへの反映など、現場を見える化して協力会社との打ち合わせに生かしている。コンクリート属性情報を蓄積し、引き渡し時に発注者にデータも受け渡すことで、維持管理にも活用できるという。



タブレットでC I Mの活用状況
を見る学生

見学会では、大賀所長が工事概要やP Cの仕組み、「3径間連続ラーメン箱桁」の意味などを説明。続いて大林組の杉浦伸哉土木本部長室情報企画課長が、「ゼネコンの職員は安全で間違いなく協力会社が作業するために管理、指示するのが役割で、ゼネコン社員が土を掘ったりしているわけではない」などと、ゼネコンとコンサル、協力会社、発注者の役割が違うことを説明した。また、「良いものを早く手順を間違えずにつくるためのツール」とC I Mを紹介し、タブレットを配布して3 Dモデルを学生たちに披露した。C I Mの活用によって「協力会社の作業員などと同じイメージで作業ができる」と効果を説明した。

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日 経 | 2. 朝 日 | 3. 毎 日 |
| 4. 読 売 | 5. 岐 阜 | 6. 中 日 |
| 7. 産 経 | 8. 静 岡 | 9. 伊 勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建 通 | 12. 日刊工業 |
| ③建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海事 |
| 16. 建設工業 | | |

平成25年12月16日(朝)・夕) P 2